

### 第三期青森県がん対策推進計画(個別目標一覧)の進捗について

資料 1 - 2

改善(目標達成含む)	36
悪化	14
変化なし	3
その他(データ更新なし等)	6

59

大項目	中項目	番号	目標				データ出典	進捗状況	備考
			個別指標	策定時(時点)	現状値(時点)	目標値(時点)			
科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実	(1)がんの1次予防の推進	1	年齢調整罹患率	H25年	H29年	R5年	がん登録		※平成28年度から全国がん登録が始まり、がん登録の精度が高まったことから、見かけ上、がん罹患率が上昇している可能性がある。
			胃がん 男性	73.7	80.3	減少		悪化	
			胃がん 女性	25.4	27.9	減少		悪化	
			大腸がん 男性	74.9	95.5	減少		悪化	
			大腸がん 女性	42.1	50.2	減少		悪化	
			肺がん 男性	66.3	70.1	減少		悪化	
			肺がん 女性	20.3	21.8	減少		悪化	
			乳がん	84.2	107.1	減少		悪化	
		子宮がん	27.6	34.7	減少	悪化			
		2	成人喫煙率の減少 (喫煙をやめたい者がやめる)	H28年度	—	R5年度	青森県県民健康・栄養調査	その他(データ更新なし)	【参考値:国民生活基礎調査】 ○20歳以上喫煙率(男女計) H25 25.9% H28 23.8% R元 22.2%(全国2位)
			男性	34.9%	—	男性23.0%以下			
			女性	11.5%	—	女性5.0%以下		その他(データ更新なし)	
		3	未成年の喫煙率	H27年度	R元年度	R5年度	青森県小・中・高喫煙状況等調査		
			中学1年生 男子	0.2%	0.2%	0%		変化なし	
			中学1年生 女子	0.2%	0%	0%		改善(目標達成)	
			高校3年生 男子	1.1%	0.9%	0%		改善	
			高校3年生 女子	0.3%	0.7%	0%		悪化	

大項目	中項目	番号	目標						
			個別指標	策定時 (時点)	現状値 (時点)	目標値 (時点)	データ出典	進捗状況	備考
科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実	(1)がんの1次予防の推進	4	妊婦の喫煙率	H28年度 2.9%	R元年度 2.2%	R5年度 0%	青森県妊婦連絡票	改善	
		5	受動喫煙防止対策(施設内禁煙)を実施している施設の割合	H27年度	R元年度	R5年度	青森県受動喫煙防止対策実施状況調査		
			県庁舎	83.3%	100%	100%		改善(目標達成)	
			市町村庁舎	64.1%	100%	100%		改善(目標達成)	
			文化施設	91.7%	96.6%	100%		改善	
			教育・保育施設	97.7%	98.5%	100%		改善	
			医療機関	86.6%	93.3%	100%		改善	
			事業所(50人以上)	30.4%	50.0%	100%		改善	
			事業所(50人未満)	41.7%	54.1%	100%		改善	
		6	野菜と果物の摂取量の増加				青森県県民健康・栄養調査		
			①野菜摂取量の平均値(20歳以上)	H28年度 300 <sup>g</sup>	—	R5年度 350 <sup>g</sup>		その他(データ更新なし)	
			②果物摂取量100 <sup>g</sup> 未満の者の割合	H22年度 56.5%	H28年度 59.5%	R5年度 28%		悪化	
		7	生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者(※)の割合の減少	H27年度	H30年度	R5年度	市町村国保特定健康診査データ		※ 一日当たりの純アルコール摂取量が男性40 <sup>g</sup> 以上、女性20 <sup>g</sup> 以上の者
			男性	32.4%	31.6%	26.7%		改善	
			女性	19.4%	19.8%	14.4%		悪化	
		8	運動習慣者の割合の増加	H22年度	H28年度	R5年度	青森県県民健康・栄養調査		
			20歳～64歳 男性	30.9%	30.6%	40.0%		悪化	
			20歳～64歳 女性	25.0%	19.7%	35.0%		悪化	
			65歳以上 男性	42.6%	50.9%	52.0%		改善	
			65歳以上 女性	37.8%	33.8%	48.0%		悪化	

大項目	中項目	番号	目標						
			個別指標	策定時 (時点)	現状値 (時点)	目標値 (時点)	データ出典	進捗状況	備考
科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実	(2)がんの早期発見及びがん検診	9	がんの75歳未満年齢調整死亡率	H28年 93.3人	H30年 91.1人	R5年 81.3人	国立がん研究センター	改善	
		10	検診受診率	H28年	R元年	R5年	国民生活基礎調査		
			胃がん 男性	48.9%	52.9%	50%以上		改善(目標達成)	○胃、大腸、肺がんは、各検診を過去1年以内に受けた者の数／調査対象者数(40歳～69歳)
			胃がん 女性	38.9%	43.5%	50%以上		改善	
			大腸がん 男性	48.9%	55.1%	50%以上		改善(目標達成)	
			大腸がん 女性	41.6%	47.7%	50%以上		改善	
			肺がん 男性	55.0%	59.7%	50%以上		改善(目標達成)	
			肺がん 女性	46.6%	52.3%	50%以上		改善(目標達成)	
			乳がん	41.6%	45.6%	50%以上		改善	
		子宮頸がん	40.9%	44.1%	50%以上	改善	○子宮がんは、子宮がん検診を過去2年以内に受けた者の数／調査対象者数(20歳～69歳)		
		11	市町村がん精密検査受診率	H26年度	H29年度	R5年度	地域保健・健康増進事業報告		
			胃がん	79.6%	81.1%	90%以上		改善	
			大腸がん	76.9%	79.6%	90%以上		改善	
			肺がん	85.0%	86.7%	90%以上		改善	
			子宮頸がん	83.3%	87.4%	90%以上		改善	
			乳がん	90.8%	93.7%	90%以上		改善(目標達成)	
		12	精度管理・事業評価実施割合	H28年度	H30年度	R5年度	事業評価のためのチェックリスト回答状況		
			胃がん	25.0%	65.0%	100%		改善	「事業評価のための市町村チェックリスト」の項目を8割以上実施しているとした市町村の割合
			大腸がん	25.0%	65.0%	100%		改善	
			肺がん	25.0%	67.5%	100%		改善	
			子宮頸がん	30.0%	65.0%	100%		改善	
			乳がん	27.5%	65.0%	100%		改善	
		13	科学的根拠に基づく検診実施市町村の割合	H28年度 100%	R元年度 100%	R5年度 100%	青森県	変化なし (目標達成)	

大項目	中項目	番号	目標						
			個別指標	策定時 (時点)	現状値 (時点)	目標値 (時点)	データ出典	進捗状況	備考
患者本位のがん医療の充実	がんの手術療法、放射線療法、薬物療法及び免疫療法の充実	14	がん診療連携拠点病院充足率 (拠点病院の整備された二次医療圏の割合)	H29年度 83.3%(5/6圏域)	R2年度 83.3%(5/6圏域)	R5年度 100%	青森県	変化なし	
	がん登録	15	がん登録等の推進に関する法律第19条に基づきがん情報等を利用した市町村の割合	H30年度 —	R元年度 5%	R5年度 100%	青森県	その他(改善・悪化の判断が困難)	
		16	がん登録のDCN割合、DCO割合(上皮内がんを除く。)	H25年	H27年	R5年	青森県	改善	【DCN】 死亡票で初めて登録された症例の割合。 【DCO】 遡り調査を実施しても死亡票の情報に追加した情報が得られない症例の割合
			DCN割合	7.7%	5.6%	5%以下			
DCO割合	1.9%	1.6%	2%以下	改善(目標達成)	いずれも数字が小さいほど届出漏れが少なく、データの信頼性が高いことを意味する。				
尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築	緩和ケアの推進	17	拠点病院でがん診療に携わる医師の緩和ケア研修修了割合	H28年度 89.3%	—	R5年度 100%	厚生労働省	その他(データ更新なし)	
尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築	相談支援及び情報提供	18	ピアサポーターの普及	H29年度 48人	R元年度 63人	R5年度 増加	青森県	改善	
	社会連携に基づくがん対策・がん患者支援	19	緩和ケア体制整備病院数(がん診療連携拠点病院以外で緩和ケア病棟又は緩和ケアチームありとした病院数)	H28年度 17施設	—	R5年度 増加	青森県医療機能調査	その他(データ更新なし)	
		20	緩和ケア実施訪問看護ステーション数 (「麻薬を用いた疼痛管理」に対応している訪問看護ステーションの数)	H28年度 74施設	R元年度 101施設	R5年度 増加	青森県介護サービス情報	改善	
基盤の整備	人材育成	21	がん関係認定看護師数(拠点病院(地域がん診療病院含)におけるがんに関する専門知識を有する看護師数)	H28年度 44人	R元年度 44人	R5年度 増加	拠点病院現況報告	変化なし	

(現状の中間評価)

○がんの75歳未満年齢調整死亡率は改善されているものの、依然として全国最下位(令和2年1月国立がん研究センター発表)であることから、引き続き喫煙対策をはじめとするがんの1次予防の推進やがんの早期発見・早期治療につながる対策が必要である。